



株式会社 朋
代表取締役

大西 亮平

建設業を手掛ける祖父、祖父のもとで働く父親の背中を見て育った大西社長。二人と同じ道を志し、経験を重ねた後に独立を果たしたが、当初は苦難の連続だった。そんな時、手を差し伸べてくれたのは祖父や父親のことを知る周囲の人々だったという。「大西さんのとこのお孫さんなら」、「大西さんの息子さんなら」——。そんな言葉をかけられた時、祖父や父親から見えないタスキを受け取っていると感じた社長。そのタスキを次代につなげていくことが役割——そう強く心に刻んでいる。

「祖父と父から受け継いだタスキを 次代につなげていくのが役割」

column
激動の建設業界に一石を投じる取り組み

▼昨今、建設業界は慢性的な人材不足に陥っている。そんな状況について大西社長は、「人材不足と言っても、人材が分散しているだけだと思うんです」と語る。「会社に勤めていた人が個人で動き出して、現場に必要な絶対数が確保できない。だから“人材不足”だと言われる。それでも、集まる場所には集まっている」と続けた。そんな中で社長は、一人の従業員に加えて、4人の職人を「一人親方」として『朋』で契約。敢えて従業員としてではなく一人親方として迎え入れることで、個々に競争意識を持たせて技術の向上を図る狙いがあるという。固定観念にとらわれず、多様で柔軟な雇用形態を取り入れた社長の取り組みは、建設業界に一石を投じるものと言えるのではないだろうか。「仲間たちに支えられていることを実感している」と語る社長が今後どんな舵取りを見せてくれるか、楽しみだ。



だくなど、周りの方々に助けられたことで何とか乗り越えることができたんです。中には、祖父や父のことを知っておられて、「大西さんのとこのお孫さんか」「大西さんの息子さんか」と言って助けて下さる方もいて、本当にありがたかったですね。

——それは社長のお人柄もあったからこそ、周りの方々が「助けたい」と思われたはずですよ。とはいえ、お祖父様も社長が建設業で独立をされることは喜ばれたのではないのでしょうか。

直接口に出すことはありませんでしたが、そうだと嬉しいですね(笑)。独立当初、祖父はことあるごとに私のもとを訪れて「わしにできることはないか」と声を掛けてくれたんです。祖父は現在84歳です。何かあれば大変ですから実際に手伝ってもらうことはありませんが、今でも気に掛けてくれているようです。祖父は、自分で事業を手掛けていく大変さをよく理解しているからこそ、常に声を掛けてくれているのかもしれないね。

——心温まるエピソードですね。お祖父様との絆の深さが窺えます。

実は、志垣さんとお話をさせていただいているこの場所は、もともと祖父が所有していた倉庫なんです。祖父から「使っても良い」と譲ってもらったのですが、ゼロからスタートした私がこれだけ立派な倉庫を建てることは簡単なことではありませんでした。本当に恵まれていると

思いますし、この倉庫は私にとって大きな財産です。

——お祖父様もいつか社長に使ってもらいたいとずっと守り続けてこられたのでしょうか。ところで現在、従業員さんは抱えておられて？

当社の従業員として雇用しているのは1名で、あとは一人親方として独立したいという意志を持っている職人を4人ほど抱えています。職人の中には、腕はとても良いのに、仕事を取ることは苦手という者も多いんです。そんな職人たちを迎え入れて、『朋』という一つのチームとして動いているんですよ。

——職人さんたちを従業員として雇用しないのは何か理由があたり？

一般的な起業のように従業員として雇用するのではなく、一人親方として契約をすることにより、個人それぞれで競争意識が芽生えて、技術力の向上につながるのではないかと考えたからです。

——なるほど。職人さんたちは高いモチベーションを維持することができ、お互いに切磋琢磨しながら高め合うことができると。それはチーム全体にとっても良い効果をもたらすでしょうね。

ええ。頼もしい仲間たちに支えられ、堅調に事業を推進できていると感じています。独立当初は不安ばかりでしたが、助けてくれたり、支えてくれたりする周囲の人々に恵まれたからこそ、ここまでこられたと思います。その恩返しをしたいという思いが、今の原動力です。

——最後に、今後の展望を伺います。

いつどこで大きな災害が起きるか分からない今の時代で、土木・建築工事を通じて、地域やそこで暮らす人々のお役に立ちたい。それこそが、私共が果たすべき役割だと考えています。

(2019年4月取材)

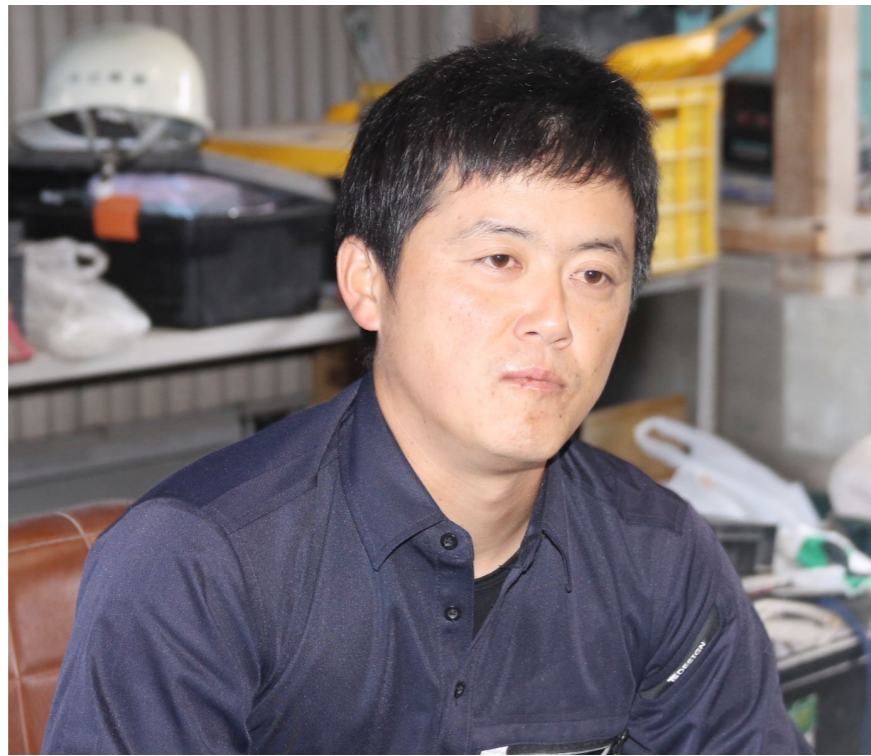
guest interviewer



「独立当初はご苦労されながらも、現在は経営者として着実に歩みを進めておられる大西社長。お話ししていると、リーダーとして持つべき強さと優しさを兼ね備えておられることが窺えましたよ。今後もぜひ頑張ってくださいですね。陰ながら応援しています！」 志垣 太郎・談

感謝の思いを胸に、力強く事業を推進！
周囲に支えられ、今がある。

代表取締役 大西 亮平 × 俳優 志垣 太郎



香川県三豊市を拠点に、土木・建築工事をはじめ測量業務などを手掛ける『朋』。同社を率いるのが、地元出身の大西社長だ。建設会社を営む祖父の背中を見て育ち、建設業界を志した少年時代。そして、独立して堅調に事業を推進する現在までの歩みを中心に、俳優の志垣太郎氏が社長の様々な想いを紐解く——。

——早速ですが、大西社長が歩んでこられた道程からお聞かせ願えますか。

ここ香川県三豊市豊中町の出身です。小さいころから野球に打ち込み、活発な子どもでした。祖父が建設業を手掛けており、当時は父もそちらで働いていました。二人が日々汗水流して仕事に打ち込む背中を見て育ち、「自分もいつかは建設業に就いて、ゆくゆくは祖父の事業を継承したい」と考えるようになりました。それで高校は土木科で学び、卒業後は建設会社に就職。5年ほど技術を磨いた後、別の会社に移り3年ほど経験を蓄積しました。それからまた別の会社に移ることになったのですが、そちらの社長にはありがたいことに、「独立を考えているのなら、バックアップする」と声をかけていただいたんです。それでお客様との打ち合わせや様々な段取りまですべて自分でこなすようになり、「これなら独立してやっていけるのではないかと自信を深めました。そして勤務先にも快く背中を押していただき、個人事業主として独立することを決意したんです。

——満を持して独立、というわけですね。いざスタートされて、いかがでしたか。

これまでは現場監督として現場で指揮を執ることが中心でしたが、個人事業主になれば仕事を取ってくるのも、現場で作業をするのも全て自分一人。慣れない作業も多く、なかなか思い通りに進まずに当初は苦悩の連続でした。そんな中で、現場監督の立場で仕事に呼んでいた

